

大学の世界展開力強化事業 H27取組概要 大阪大学(代表校)

【構想の名称】(選定年度23年度(タイプA-Ⅱ))

「アジア平和＝人間の安全保障大学連合」を通じた次世代高品位政策リーダーの育成

【プログラムの目的・養成する人材像】

国際社会が直面する複雑で困難な諸問題一紛争、貧困、差別、疾病等一を克服するために、高い理想と柔軟な発想をもち、的確な知識を身につけ、隣人とともに手を携え、協力して取り組める次世代の有為な人材を養成する。

【構想の概要】

日本と東南アジアの10大学が連携し、平和構築、平和共生、多文化共生、健康開発を重点テーマとしつつ、共通課題に協力して取り組む精神と方法を学ぶ場の構築を通じて、地域社会ひいては地球社会の未来を担う政策リーダーを育成する。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

大学間連携体制の構築

日本側(大阪大学・広島大学・長崎大学・名桜大学の各大学院・学部)が結成した「アジアの平和と人間の安全保障大学コンソーシアム」は、デ・ラ・サール大学、パヤップ大学、シアー・クアラ大学、東ティモール国立大学、ナンヤン工科大学、カンボジア・パンナサストラ大学、チェンマイ大学の連携大学院・学部と学術交流協定・学生交流覚書を締結した。コンソーシアムの国内連携大学会議を開催し、加えて海外連携大学と教員の相互訪問も行った。

〈セメスタープログラムで来日した学生たちの合同成果発表会。教員も集合。〉



テレビ会議システムを利用した共同講義の実施

大阪大学、広島大学、チェンマイ大学の3大学に加え、H27年度はデ・ラ・サール大学も一部参加し、テレビ会議システムを利用して共同でリレー講義を実施した。

■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

〈カンボジアでのサブ・プログラム中、民間児童養護施設で一緒に昼食をとる。〉



メイン・プログラム(受入/派遣)

東南アジア連携大学からの留学生11名を、大阪大学・広島大学・名桜大学で半年間受け入れ、海外連携6大学へ大阪大学・広島大学・長崎大学・名桜大学より合計9名の学生を4ヶ月から8ヶ月間(受入大学の1学期間)派遣した。

サブ・プログラム(受入/派遣)

大阪大学にて、東南アジアの学生11名を対象として、9日間の短期集中日本プログラムを実施した。また、パンナサストラ大学で日本側3大学所属学生10名を対象に8日間のプログラムを実施した。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

厳正な審査を経て、日本の連携大学からメイン・プログラム(派遣)に9名(内留学生は3名)、サブ・プログラム(派遣)に10名(内留学生は4名)を派遣した。

○ 外国人留学生の受入れ

厳正な審査を経て、東南アジアの連携大学からメイン・プログラム(受入)に11名、サブ・プログラム(受入)に11名を受け入れた。

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	16	29	23	24	19
学生の受入	10	22	24	24	22

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

連携大学教員による招へい講義・セミナー・説明会、英語力強化、特殊語学指導

デ・ラ・サール大学、ナンヤン工科大学・パンナサストラ大学教員を招へいしての集中講義及びセミナー、留学説明会を開催し、東南アジア留学への関心を喚起した他、英語指導(イングリッシュカフェ)、英語添削指導、テトウン語(東ティモール)指導を行った。

授業の英語化、教務事務の英語化、留学生ハウジング提供体制、チューター制度

代表校の運営事務局、連携大学のサブ・オフィスを継続運営し、授業のさらなる英語化、教務事務の英語化(英語時間割の作成等)、留学生用民間アパート短期契約の促進を図った。また、留学生にはチューターを配置した。

■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開・成果の普及

ダブルディグリー、英語カリキュラムによる研究科への発展、留学生の増大、英語ホームページやfacebookによる情報発信

大阪大学ではデ・ラ・サール大学とのダブルディグリープログラムを開始した。長崎大学では英語カリキュラムによる新研究科へと発展し、大阪大学では参加研究科の留学生の割合が過去4年で10ポイント上昇した。プログラムの進捗や参加学生の声を英語ホームページやfacebookを通じて発信した。